

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 16日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502355		
法人名	有限会社 ネイチャー		
事業所名	グループホーム なつれ		
所在地	札幌市豊平区福住2条10丁目14-1 (電話) 011-855-5783		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年3月21日

【情報提供票より】 (平成 21年 2月 27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 1月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り
	2階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~38,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費: 16,000円 暖房費(11-3月): 11,000円
敷 金	(有) (60,000~76,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円
	夕食	450 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (2月 27日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	2名	要介護2	2名
要介護3	3名	要介護4	0名
要介護5	2名	要支援2	0名
年齢	平均 83歳	最低 75歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	まこまない共生クリニック クボタ泌尿器科クリニック	展望台整形外科 星川歯科医院	高台病院
---------	------------------------------	-------------------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム なつれ」は、地域で認知症を持つ高齢者の幸せを基本理念に掲げ、平成15年に開設したホームである。5年が経過し、昨年は管理者、職員の大幅な交代もあったが、熱心な管理者の就任で、以前のケアを継続しながら職員育成など、具体的な案を検討し、運営者と一緒に新たな体制作りに取り組んでいる。運営者は自宅のように暮らすホームをと考え、大きな民家を改造した。1階、中2階、2階には、広さなどが若干違う居室があり、職員が状況を見守る中で、電動昇降機を利用者自身が操作し、2階への移動も安全に行われている。管理者は利用者と職員の馴染みの関係を深める関係を築き、個人のできる可能性を探りながら支援を考えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回は話し合った、理念の見直し、町内会行事への参加、市町村担当者との連携、同業者との連携、面会簿、外出支援などの項目は、継続して検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価では、管理者、職員の交代から、実施前にサービス評価の重要性を話し合い、管理者は項目ごとに現状と照らし合わせ職員と確認したものをまとめた。次回の自己評価では一人ひとりが評価表に記入し、より理解を深めるような取組を考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の開催案内を全家族に送付し、数名の家族は参加しているが町内会代表や民生委員の参加率が低いので協力をお願いしている。会議では行事、利用者の様子、職員の交代、事故などを報告し、率直な意見交換がなされており、要望などは運営に反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	行事、普段の様子、健康などを載せた「なつれ通信」を、毎月、個人宛に送り、職員の新規採用や退職がある時は文書で報告している。運営推進会議の後に、家族会を持ち参加した家族からも意見を聞いている。家族の来訪時には職員交代による心配な点を聞き、ミーティング時に意見を取り上げて雰囲気、言葉遣いに注意し対応やケアの継続について話し合っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の行事に参加していたが、最近では利用者の身体機能、意欲の低下もあり参加していない。趣味のダンスやマージャンを喜ぶ利用者もいるのでボランティアの導入を検討している。誕生会、おやつ会には家族、近所の人を招き交流を楽しんでいる。町内会の清掃に利用者も参加し、ゴミ拾いなどを通して近隣住民との交流を考えているところである。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの基本理念に、笑顔を大切になどの簡単な標語を掲げケアの指針としている。地域との関係性を盛り込んだ理念の見直しは検討中である。	○	地域とのつながりについて、職員間で話し合う機会を設け、地域密着型サービスとしての視点を盛り込んだ事業所独自の理念づくりに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、居間に掲げている。朝のミーティングやカンファレンスで、その人らしい生活ができるように話し合い、職員はケアの指針に沿って笑いがある生活を提供できるよう、日々努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の行事に参加していたが、最近では利用者の身体機能、意欲の低下もあり参加していない。趣味のダンスやマージャンを喜ぶ利用者もいるので、ボランティアの導入を検討している。誕生会、おやつ会には家族、近所の人を招き交流を楽しんでいる。	○	ボランティアを受け入れ、個人の楽しみを増やしたいとの意向なので、それに期待したい。また、町内会の清掃にゴミ拾いなどを検討しているので、利用者も参加し近隣との身近な交流にも期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価では、管理者、職員の交代から実施前にサービス評価の重要性を話し合い理解に努めた。管理者はミーティング時に、項目ごとに現状と照らし合わせ職員と確認したものをまとめた。課題については積極的に取り組む姿勢である。	○	次回の自己評価には職員が項目を理解し、一人ひとりが自己評価表に記入できるような工夫など、より理解を深める取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催案内を全家族に送付し、数名の家族が参加している。町内会代表や民生委員の参加率が低いので協力をお願いしている。会議では行事、利用者の様子、職員の交代、事故などを報告し、率直な意見交換がなされている。要望などは運営に反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当者とは、電話で連絡や相談をしている。おむつ支給や経費軽減のために利用者の個別の事情に応じて相談し、ボランティアの依頼も考えている。生活保護担当者の訪問は定期的であり、その時に話し合っている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事、普段の様子、健康などを載せた「なつれ通信」を、毎月、個人宛に送り、職員の新規採用や退職がある時は文書で報告している。身体状況の些細な変化にも電話で説明し、家族の来訪時にも報告している。事情に応じて預かっている小口現金は来訪時に金銭出納帳で確認している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「なつれ通信」で意見を求め、運営推進会議の後に、家族会を持ち参加した家族からも意見を聞いている。来訪時に職員交代による心配な点を聞き、ミーティング時に意見を取り上げて雰囲気、言葉遣いに注意し、対応やケアの継続について話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年、管理者と職員の大幅な交代があり、利用者との信頼関係を深めることに日々努めている。運営者も馴染みの関係に留意し、職員の定着に心を砕き、今までどおり利用者の気持ちに沿う生活支援を指導している。職員が辞める時は、利用者が安心するような内容で説明をしている。	○	利用者との信頼関係が深められ、馴染みの関係が維持できるような環境作りに期待したい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の採用時には、代表と管理者がホームの理念やケア方針を伝え、まず、利用者顔馴染みの関係を築くようにしてから、業務に入ってもらおう。職員の交代により外部研修の参加は少ないが朝のミーティングで医療的なこと、認知症への対応について学んでいる。	○	職員の体制を整え、法人内で勉強会を2カ月ごとに持ち、外部研修の参加も多くしたいとのことなので、学ぶ機会に向けての取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の「グループホーム管理者連絡会」では、管理者は同業者と情報交換や交流をし、職員の参加も勧めている。今年は地域の同業者の見学などを考えている。	○	区の「グループホーム管理者連絡会」には職員も参加し、同業者と交流する機会を期待したい。また、検討中の他事業所との相互訪問などでサービスの質を向上させていく取り組みにも期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の希望があれば、管理者であるケアマネジャーが訪問し、状況を確認している。入居前に家族・本人の見学を勧め、ホールでお茶を飲みながら安心して入居できるように配慮している。入居後は家族の意向、本人の思いを汲み取って、会話を多くし環境に馴染めるような工夫で関わっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	以前に折り紙を教えて貰ったが、手が動かないとあまりしなくなった。何もしようとしない利用者にも、朝の掃除に椅子を拭いてもらうなど、状況を見ながら出来ることをお願いしている。昔の話や旅行した話を聞いて教えられることも多い。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カラオケと一緒にいき、個人の要望を叶えるようにしていたが、最近は全体的に外出の希望があまりない。家族の情報や会話の中で興味を引き出し試している。意思表示が困難な場合は動きに注意し、触れて反応を見たり聞くなどして、表情から思いを探っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新規作成の場合は、介護支援専門員が本人、家族の意向を把握し、かかりつけ医から医療情報を収集して1ヶ月の暫定的な計画を作成している。その後は生活状況を観察し、カンファレンスで話し合い本計画を作成している。計画は、家族の来訪時や郵送で説明をし本人には、個人の心身の状況に応じて説明をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意向を取り入れながら3ヶ月毎に定期的な見直しをしている。排泄や歩行などの身体機能の変化に応じて随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護や往診を利用して事業所内で点滴を実施したり、通院の介助を行っている。家族の対応が難しいような買物については代行をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用契約時にかかりつけ医の有無を確認し、本人、家族の意向を把握して内科医であれば協力医療機関に変更を依頼している。かかりつけ医から協力医療機関へ紹介状を出してもらうことで連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	サービス利用契約時に重度化や終末期に向けた事業所の方針を口頭で説明している。入院を希望しない場合の看取りは、看護師が常勤している同一法人の高齢者住宅を紹介している。事業所では、看取りは行っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人が立ち上げるなどの動作がある時にトイレへ誘導するようにしている。排泄を想像させるような言葉は使わないよう職員間で注意し、申し送りや日々のケアを通して話し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は、一人ひとりの利用者に合わせるようにしており、朝食後は体操や歩行マシンを使って身体を動かすようにしている。1日のほとんどを居間のソファに座って過ごしていることが多く、本人からその日の過ごし方について希望が出されることは少ない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	座ってできる野菜の皮むきやもやしのひげ根取りなどに参加している。庭の果樹や畑の収穫物が食卓に上ることもあり、楽しみの一つとなっている。食堂が狭いため先に利用者が食事をし、その後職員が食べている。	○	職員が少なくとも1名は一緒に食事をするようにできるよう、期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	少なくとも週に2回以上は、ゆっくりと入浴している。日曜日以外の午後から入浴の時間を設けているが体調や気分により曜日を変更している。本人が自分で入浴したことを記録することで次回入浴を楽しめるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食堂のテーブル拭きや椅子やソファの雑巾がけをしているが、最近は身体機能や意欲の低下があり、身体を動かすことが少なくなってきたので、積極的に言葉かけをしている。	○	一人ひとりの利用者に応じて役割、楽しみごと、気晴らしの支援を行うことを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	以前は、近くのコンビニや公園に出かけていたが、最近は利用者の身体機能や意欲が低下してきているので、ほとんど外出はしていない。	○	外出への意欲を促し、日常的な外出支援を行うことを期待したい。また、冬季は車を使っての近隣への外出を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、一人ひとりの利用者の行動を観察し、見守ることで安全への配慮をしている。「外出する時は職員に声をかけて下さい」という張り紙をするなどの方法で鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。その内1回は消防署の協力の下に実施し、他は自主訓練として消火器の使い方や避難誘導などを行っている。	○	運営推進会議の議題で話し合ったり、隣接している住宅に声をかけるなどの方法で地域の人々の協力を得ることができるよう、期待したい。また、夜間の災害対策について検討することを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、利用者の好みを聞きながら職員が作成しているが専門的な栄養管理は受けていない。水分量は個別に記録し1日分の総計をまとめている。食事量については、記録をしていた時期もあるが、今は記載されていない。	○	食事や水分の量を一覧表にまとめ職員全員が情報を共有することができるよう、期待したい。また、管理栄養士から栄養管理を受けることができるよう、期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人住宅を改造しているので、共有の空間は玄関に段差があることや居間と食堂のスペースが狭いということもあるが生活感を感じさせる造りとなっている。また、居間のベランダから庭が見えるので四季の変化を楽しむことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階、中2階、2階に各々の居室があり、電動昇降機を利用者自身が操作し、2階への移動をしている。鏡台や箆筒、仏壇などを持ち込み使い慣れた馴染みのある家具に囲まれて本人らしい居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。